

立山山中の野鼠類について 第1報 ハタネズミ属の種類

望月正巳*・赤座久明**

(*富山県立技術短大・**富山大学文理学部)

M. MOCHIZUKI and H. AKAZA : Study on the rodents in Tateyama mountains. 1.
Species of Microtinae

立山山中の野鼠の種類については1962年に筆者が「耕地野鼠害の生態学的研究」の一部として立山山中の野鼠調査を行い、ヤチネズミ、スミスネズミと思われるハタネズミ属の野鼠を捕獲したことを報告した。その後1964年に植木博士は「北アルプスの自然」にトウホクヤチネズミ、ニイガタヤチネズミ、カゲネズミ、スミスネズミを捕獲したことを報じている。その後において立山山中の野鼠類についての報告は見当たらない。

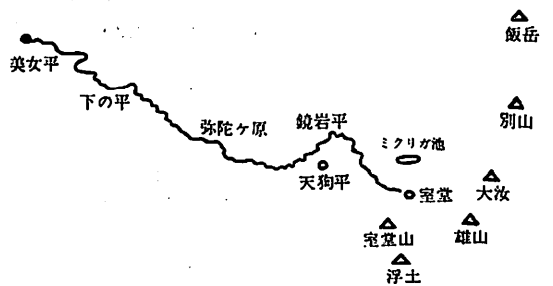
最近になり、立山の自然保護の見地から、生物すなわち植物、動物、昆虫等の調査が実施された。しかし、小動物特に野鼠類については全くふれられていない。そこで、1975年から富山大学文理学部学生の協力を得て立山山中の野鼠の種類と生態について詳細な検討を加えることにした。

美女平より上の高所において捕鼠を実施し、標本を得ることが出来たので、これらの標本について外・内形態の調査を行い同定を試みたので報告する。

野鼠の捕獲には、富山営林署の好意により入林許可を受け、捕鼠には富山大学文理学部学生寺尾邦宏、斉藤和子氏らの献身的な協力を得た。富山大学名誉教授植木忠夫博士からは立山山中の小動物類に関する情報の提供をいただき、また日本植物防疫協会の斉藤克総務部長のあつせんを得て、大塚薬品株式会社から多数の捕鼠器の提供を受けたので、これらの方々に深甚の謝意を表する。

調査方法 捕鼠器はバチンコ式の小型のものを多数使用し、誘引餌にはサツマアゲを主として用いた。7～8月に数回入山し、第1図に示すように美女平から浄土

山頂に至る間に数地点の捕鼠場所を設定した。捕鼠した個体にはそれぞれに番号を付し、ホルマリンを入れたポリエチレン広口瓶中に収めて持ち帰り、後日同定に必要な外・内形態についての調査検討を行った。



第1図 調査地点の位置

調査結果 採集した個体は、弥陀ヶ原 (1940m) 付近で尾が長い個体1頭、室堂山 (2662m) 付近で尾が長い個体2頭、ミクリガ池 (2400m) 付近で尾が短い個体18頭 (内2頭は天敵によって頭部消失)、浄土山頂 (2872m) 付近で尾が短い個体1頭の合計22頭であった。ミクリガ池付近の天敵によると思われる頭部消失個体を除いて、外・内形態の主な特徴は第1、2表に示す通りである。

そのI 尾が長い個体について、第1表に示すように、室堂山付近の標本は頭胴長 11.0 cm、尾長 6.5 cm、後足長 2.0 cm、耳長 1.3 cm、乳房 8 個、後足趾球 6 個の

第1表 尾の長い標本の形態

個体番号	採集地点	外 形 態						内 形 態					性 別	
		頭胴長	尾 長	後足長	耳 長	後足趾球数右	後足趾球数左	乳房数	妊娠の有無	精巣の太さ	精巣の大きさ	口蓋の構造		下臼歯前縁の構造
1	弥陀ヶ原	10.0	7.0	2.1	1.2	6	6	8	無	1.0	—	ヤチ・スミス型	ヤチ型	♀
2	室堂山	11.0	6.5	2.0	1.3	6	6	8	無	—	—	〃	〃	♀
3	室堂山	10.0	6.3	1.9	0.8	6	6	—	—	—	9×6	〃	〃	♂

第2表 尾の短い標本の形態

個体番号	採集地点	外 形 態							内 形 態					性 別
		頭胴長	尾 長	後足長	耳 長	後足趾球右	後足趾球左	乳房数	妊娠の有無	胎卵管の太さ	精巣の大きさ	口蓋の構造	下臼歯前環の構造	
1	ミクリガ池	12.2	5.1	2.8	1.0	5	5				11×6	ハタ型	ハタ型	♂
2	"	11.3	5.0	2.0	1.0	5	5				10×6	"	"	♂
3	"	11.0	4.4	1.8	1.0	5	5	8	無	0.5		"	"	♀
4	"	10.8	4.3	1.7	1.0	5	5	8	仔	4.0		"	"	♀
5	"	10.5	4.2	1.7	1.2	6	6	8	無	2.0		"	"	♀
6	"	10.5	4.0	1.2	0.9	6	6	8	有(初期)	2.0		"	"	♀
7	"	10.2	4.2	1.5	0.8	5	6	8	無	1.3		"	"	♀
8	"	8.8	3.3	1.7	0.9	6	6				5×3	"	"	♂
9	"	8.3	3.6	1.3	0.9	5	5		無	1.0		"	"	♀
10	"	8.3	3.5	1.6	0.9	6	6				5×2	"	"	♂
11	"	8.2	3.5	1.7	1.2	5	5				2.5×x	"	"	♂
12	"	8.2	3.4	1.8	1.0	5	5				4×x	"	"	♂
13	"	7.8	3.5	1.7	0.9	6	6		無	1.0		"	"	♀
14	"	7.5	3.5	1.8	1.0	6	6		無	0.1		"	"	♀
15	"	7.5	3.4	1.7	1.1	6	6				4×3	"	"	♂
16	"	7.5	3.3	1.7	1.0	6	6				4.1×3	"	"	♂
17	浄土山頂	9.0	3.9	1.7	1.0	6	6	8	無			"	"	♀

雌獣で明らかに外観上ヤチネズミ *Clethrionomys andersoni* のトウホクヤチネズミと称せられている種類に該当した。口蓋末端の構造、下臼歯前環の構造からもヤチネズミ類に該当した。

弥陀ヶ原付近の標本は乳房 8 個、後足趾球 6 個の雌獣で外観上、前記室堂山付近の標本と同様ヤチネズミ *Clethrionomys andersoni* のトウホクヤチネズミと称せられている種類に該当した。口蓋末端の構造、下臼歯前環の構造からもヤチネズミ類に該当した。

そのⅡ 尾が短い個体について、第 2 表に示すように、浄土山頂付近の標本は頭胴長 9.0 cm、尾長 3.9 cm、後足長 1.7 cm、耳長 1.0 cm、乳房 8 個、後足趾球 6 個の雌獣で外観上ヤチネズミ *Clethrionomys andersoni* のニイガタヤチネズミと称せられている尾が短いタイプのヤチネズミに該当するが、しかし、その口蓋末端の構造、下臼歯前環の構造から高所に生息すると思われるハタネズミ *Microtus montebelli* に該当した。

ミクリガ池付近の標本は頭胴長 10.2~12.2 cm、尾長 4.0~5.1 cm、後足長 1.2~2.0 cm、耳長 0.8~1.2 cm、乳房 8 個の 7 頭の成獣（雌 5、雄 2）と 9 頭の幼獣で、後足趾球は成獣で 5 : 5 のもの 4 頭、5 : 6 のもの 1 頭、6 : 6 のもの 2 頭で、幼獣で 5 : 5 のもの 3 頭、6 : 6 のもの 6 頭であった。このことからミクリガ池付近の標本はヤチネズミ *Clethrionomys andersoni* とハタネズミ *Microtus montebelli* に該当するが、口蓋末端の構造、下臼歯前環の構造からすべて、前記浄土山頂付近の標本と同様のハタネズミ *Microtus montebelli* に該当した。

総括 以上のことから、1975年の夏に捕獲した

立山山中の標本で尾が長い個体は明らかにヤチネズミ *Clethrionomys andersoni* であり、弥陀ヶ原、室堂山付近で初めてトウホクヤチネズミの生息を確認することが出来た。

一方尾が短いタイプのニイガタヤチネズミヤスミスネズミ^{4,6)}・カゲネズミ⁶⁾などは、今回の調査では全く確認することが出来なかった。

しかし、初めてミクリガ池付近(特に多い)と浄土山頂付近にもニイガタヤチネズミに誤認され易いハタネズミ *Microtus montebelli* の生息を確認することが出来た。この高所に生息するハタネズミ *Microtus montebelli* は恐らく太郎山のハタネズミと同一のものと思われるが、この点については今後研究が必要である。このハタネズミ *Microtus montebelli* の捕獲頭数の割合は他のハタネズミ属 (*Microtinae*) よりも多く、立山連峰における局地的植生変動と特に関係が深い優勢な野鼠類ではないかと思われるが、この種の形態及び生態については今だ不明な点が多いのでさらに調査を継続中である。

引用文献

- 1) 今泉吉典 (1964) 北アルプスの自然 (奥黒部太郎山の哺乳類), 207~209, 富山大学学術調査団, 富山, 254pp.
- 2) 三坂和英 (1954) 野鼠とその防除, 19~29, 日本学術振興会, 東京, 455pp.
- 3) 黒田長礼・内田清之助・中村健児・川村智治郎 (1961) 原色動物大図鑑 1, 15~16, 北隆館, 東京, 346pp.
- 4) 望月正巳 (1962) 耕地野鼠害に関する生態学的研究. 富山農試特報 4 : 1~135.
- 5) ねずみ駆除対策協議会 (1954) ねずみ駆除教程, 8~9, 16~18, 日本環境衛

生協会, 東京, 75pp. 6) 植木忠夫 (1964) 北アルプスの自然 (立山山系とその周辺地域の小哺乳類および有

尾両生類), 96, 富山大学学術調査団, 富山, 254pp. (1976年 5月22日受領)

石川県産のハタネズミ属の標本について (短報)

望 月 正 巳 (富山県立技術短期大学)

M. MOCHIZUKI : Specimens of vole (Microtinae) in Ishikawa prefecture

昭和51年 2月17日, 石川県和倉市に於て開催された北陸病害虫研究会の席上で川瀬 英爾氏 (石川県農業試験場・企画室長) から, 昭和50年に白山山中で花井正光氏 (石川県石川郡吉野谷村中宮, 白山自然保護センター) が採集した一標本と七尾山中で採集された一標本の同定を依頼された。

同標本の調査研究結果を報告する。

標本個体の外・内形態は第 1 表に示すように, 2 個体と

も亜成獣に近い発育途上の幼獣であった。白山山中の標本の体毛は赤味の少ない黒褐色で, その頭胴長は 8.5 cm, 尾長 6.8 cm, 後足長 1.8 cm, 耳長 1.4 cm の尾が長い雌幼獣¹⁾ であって, 口蓋部末端²⁾の構造はヤチ・スミス型³⁾で, 第 1 下臼歯前環⁴⁾の構造はヤチネズミ型を示していた。この白山山中の標本は明らかにヤチネズミ *Clethrionomys andersoni* であって, 尾の長いトウホクヤチネズミの雌¹⁾ 獣と思われた。

第 1 表 標 本 の 外 ・ 内 形 態

採集地点	体毛の色	頭胴長 cm	尾 長 cm	後足長 cm	耳 長 cm	後足の 趾球数	後足最後端の趾球から		性 別	生殖器 の発育	口蓋部末 端の構造	第 1 下臼 歯前環の 構造
							後足後端ま での距離 mm	最前趾球 までの距離 mm				
白山山中	赤味が少 ない黒褐色	8.5	6.8	1.8	1.4	6	7.5	6.5	雌	子宮発育 途上	ヤチ・ス ミス型	ヤチ型
七尾山中	赤味が強い 褐色	8.5	4.3	1.5	1.4	6	7.0	6.0	雄	こう丸発 育途上	ヤチ・ス ミス型	ヤチ型

七尾山中の標本の体毛は赤味の強い褐色で, その頭胴長は 8.5 cm, 尾長 4.3 cm, 後足長 1.5 cm, 耳長 1.4 cm の尾が短い雄²⁾ 獣であって, 口蓋部末端²⁾の構造はヤチ・スミス³⁾ 型で, 第 1 下臼歯前環⁴⁾の構造は前者と同型のヤチ型³⁾で, また後足最後端の趾球⁵⁾の位置についても前者と同様ヤチ型を示していた。この標本は, 一見して体毛の赤味が強いこと, 尾が短いことからスミスネズミ *Antelionomys* (Phaulomys) *smithii*^{1,2)} に類似するが, 発育途上の標本であることを考慮しながら分類学上の詳細な特徴を総合してみると明らかにヤチネズミ *Clethrionomys andersoni*¹⁾ の尾の短いニイガタヤチネズミの雄¹⁾ 幼獣と思われた。

以上, 白山山中, 七尾山中の標本について同定を試みたが夫々一標本しかも発育途上の幼獣であって, 単なる

一般外形からは同定困難なので, 内形態も含め総合的に検討を加えた。しかし, さらに同一場所の成獣を含めた多数の標本についての調査研究が望ましい。

引 用 文 献

- 1) 黒田長礼・内田清之助・中村健児・川村智治郎 (1961) 原色動物大図鑑 I, 15~16, 北隆館, 東京, 346 pp.
- 2) 鍋木外岐雄・三坂和英 (1954) 野鼠とその防除, 19~29, 日本学術振興会, 東京, 455pp.
- 3) ねずみ駆除対策協議会 (1954) ねずみ駆除教程, 8~9, 16~18, 日本公衆衛生協会, 東京, 75pp.

(1976年 5月22日受領)